

## 平成 26 年度望洋会会報誌発行に当たり

望洋会会長 末永 昇

秋涼の頃、木々の梢は色づき、秋色に染まる色鮮やかな季節を迎えました。同窓会の諸先輩方に於かれましては、ご健勝で益々ご活躍のことと拝察いたします。

失われた 20 年を取り戻すかのように、円安と株高によるアベノミックスによる日本経済もその岐路にさしかかった気配を感じるころです。

これからはまさに地方経済を再生させることにより、日本経済の上昇気流を捉えようとしています。

時代の回転軸が大きく変わろうとしている今、来年平成 27 年度に最後の新入生を迎える母校、わが母校もその歴史の大きな転換点に立っております。

私達、望洋会もこの母校の行く末をしっかりと見守って行きたいと思えます。

そうした大変な中、同窓会の諸先輩方が営々として築き上げてこられた歴史と伝統ある望洋会総会の開催を隔年で開催することとし、本年は会報誌の発行をもって望洋会の活動と致すこととしました。

初めての試みで戸惑いもあり御苦勞をお掛けいたしました。準備に当たってこられました役員の皆様、ならびに事務局の皆様、そして一番ご苦勞をお掛けいたしました当番幹事の皆様のご尽力に対し、深甚の謝意を表したいと思えます。

本当にご苦勞様でした。また、ありがとうございました。

最後に。母校下関中央工業高等学校と望洋会の益々の隆盛と皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。